

12月15日正午必着

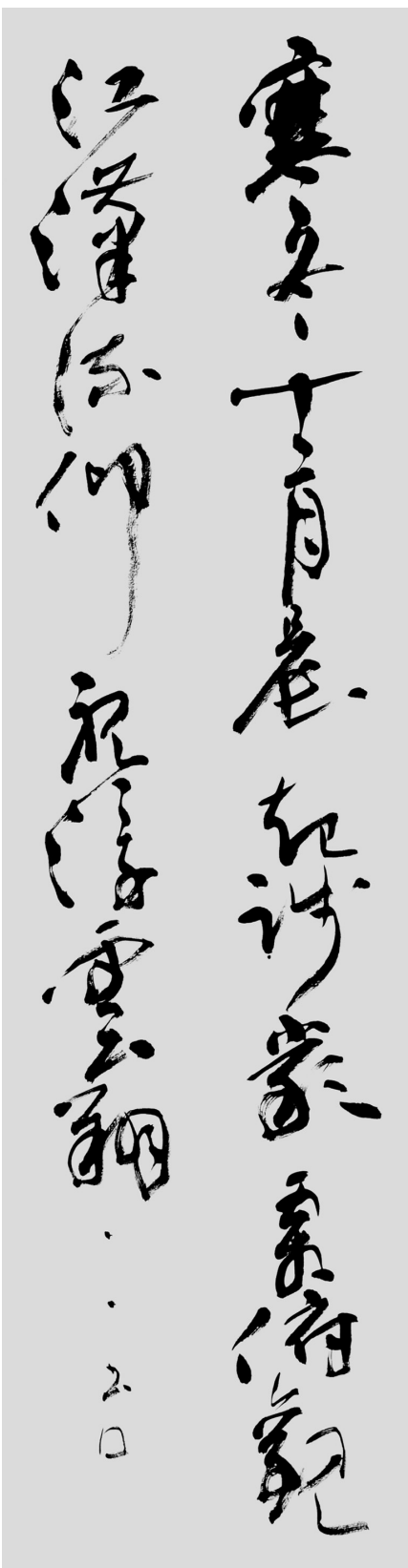
明石春浦先生書



楽道閑居 (嵇康)

道を守りて世に出でない。

明石幸子書



寒冬十二月
俯観江漢流

晨起踐嚴霜
仰視浮雲翔

(不詳)

寒冬の十二月、朝早く起きて歩めば、厳しい霜を踏む。俯しては江漢の流れをみ、仰いでは浮雲のとび去るを眺める。



条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

茅棟野人居
山果携兒摘

門前車馬疎
臯田共婦鋤

林幽偏聚鳥
家中何所有

谿澗本藏魚
唯有一牀書

(寒山)

楓林江色寒 (陳旅)

楓林江色寒し

楓樹の影を落して川の景色はいかにも寒そうである。

客心驚落木 夜坐聽秋風
朝日看容鬢 生涯在鏡中

(薛稷) 秋朝覽鏡

客心落木に驚き 夜坐秋風を聴く
朝日に容鬢を看れば 生涯鏡中に在り

塞上 (司空図)

塞上 司空図

旅びとは、落葉した樹の姿にも心を動かされる。旅館でひと夜をすごして秋風のわたり行く声を聞いた。その翌朝、鏡にうつる髪かたちを、しみじみとながめる。そこには意外にも、自分の生涯がうつし出されているではないか。

萬里隋城在 三邊虜氣衰
沙填孤障角 燒斷故關碑
馬色經寒慘 鷗聲帶晚悲
將軍正閑暇 留客換歌辭

萬里隋城在り 三邊虜氣衰う
砂は填む 孤障の角 燒は断つ 故関の碑
馬色 寒を経て慘ましく 鷗聲 晩を帯びて悲し
將軍 正に閑暇 客を留めて歌辭を換う

クリスマスの町のとよみの中をゆき霧ふらざるをめぐらしみ見つ

(尾山篤二郎)

半紙部規定課題A

12月15日正午必着



※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

12月15日正午必着

行書

登臨思
不已

隸書

登臨思
不已

明石春浦先生書

冬日野望

于良史

地際朝陽滿

天邊宿霧收

風兼殘雪起

河帶斷冰流

北闕馳心極

南圖尙旅游

登臨思不已

何處可消憂

冬日的野望

于良史

地際朝陽滿

天邊宿霧收

風は残雪を兼ねて起り

河は断水を帯びて流る

北闕心極を馳せ

南圖尙お旅游す

登臨して 思ひ已まず

何れの処にか 憂いを消す可き

草書

登臨思
不已

行草書

登臨思
不已

地上見たすかぎり朝の日ざしが満ちわたり 空のはてに昨夜来の霧も消え去った

風は残雪をまじえつつ吹き起り 河の水はくだけた水を浮べつつ流れる

北方の宮門に心のすべてを捧げているが 南を指してなおも旅中の身の上

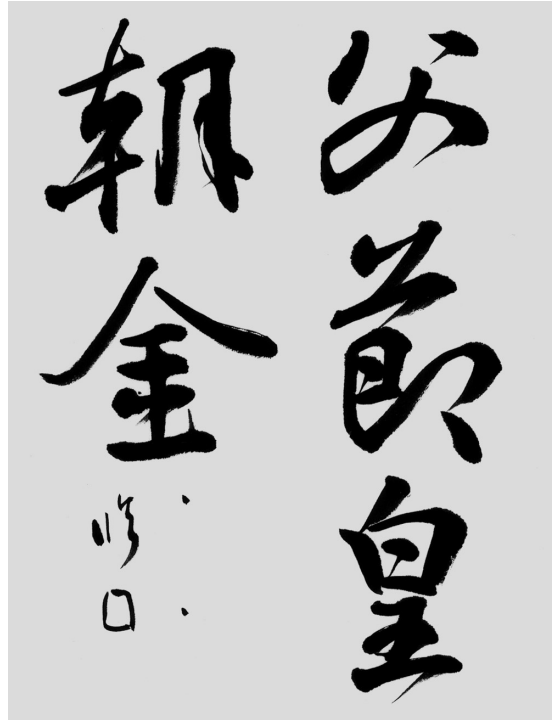
高みに上って見はるかせば、もの思いははてしなく 憂愁の心を癒すところをどこに見出せよう



諱文。字才大夫行内給事。父節皇朝金紫光祿大夫行内常侍。七貂之德。是使金鋪接。



父節皇朝金紫光祿大夫行内常侍



父節皇朝金

王羲之・興福寺断碑

書聖、王羲之の書が、そのまま中国書の規範となっていたことは今更述べるまでも無いが、その大きな原動力となったのは、法帖である。法帖は、歴代名人達の筆跡を鑑賞や字書の対象として編集されたものであり、その法帖が作られた頃の時代観、価値観なども如実に示されており興味深い構成となっている。

王羲之の文字を集字し、碑文を構成した集字碑というものもある。その最も秀れたものに唐時代に刻された「集字聖教序」があり、その約五〇年後に刻されたこの「興福寺断碑」がある。この碑についての詳しい記録は残っていないが、唐の開元九年（七二二）沙門の大雅が建立したもので明代にその碑の下半部（高さ約一メートル、幅約二、三メートル、三十五行）のみが出土した。

「集字聖教序」と「興福寺断碑」を比較していくと、前者の方が大小強弱の変化に富み作意に満ちている。行の流れも不自然さを感じられない。後者は、スケールが大きく、悠然と構えていて、古拙な味わいさえも感じさせる。王羲之の集字碑でありながら違った趣を見せる両碑を合わせて学ぶことにより、王羲之の研究の手がかりが見つかるかもしれない。

（春龍）

12月15日正午必着

教育部毛筆



そう
掃

じ
除

中学一年

雨宮春聲先生書



い
伊

せ
勢

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



しょう ぼう
消 防

小学五年

榎戸春龍先生書



おう しょう
王 将

小学六年

藤井良泰先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

12月15日正午必着



せい

かつ

小学三年

藤田幸春先生書



てん

たい

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

み そ 小学一年・幼年



森戸春濤書

おな じ 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

未来を想像すると
夢がふくらみます

小学五年

降りしきる雪の中に
すの音が消えて行く

小学六年

自らの損失ともなる
利己的なふるまいは

中学

どんな苦難にも耐え
て自分の道を進む

一般(級位)

清らにて暖しやと冬日ざし
浸りよろこぶ南となれば

清らにて暖しやと冬日ざし浸りよろこぶ南となれば (窪田空穂)

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

| | |
|---|---|
| そ | さ |
| ら | ん |
| を | た |
| | の |
| は | そ |
| し | り |
| る | が |

幼年

| | |
|---|---|
| サ | 赤 |
| ン | い |
| タ | お |
| ク | は |
| ロ | な |
| ー | の |
| ス | |

小学一年

| | |
|---|---|
| な | も |
| 雪 | み |
| が | の |
| ま | 木 |
| い | に |
| ち | |
| る | こ |

小学二年

| | |
|---|---|
| 大 | し |
| き | ん |
| な | 年 |
| | を |
| 門 | い |
| ま | わ |
| つ | う |

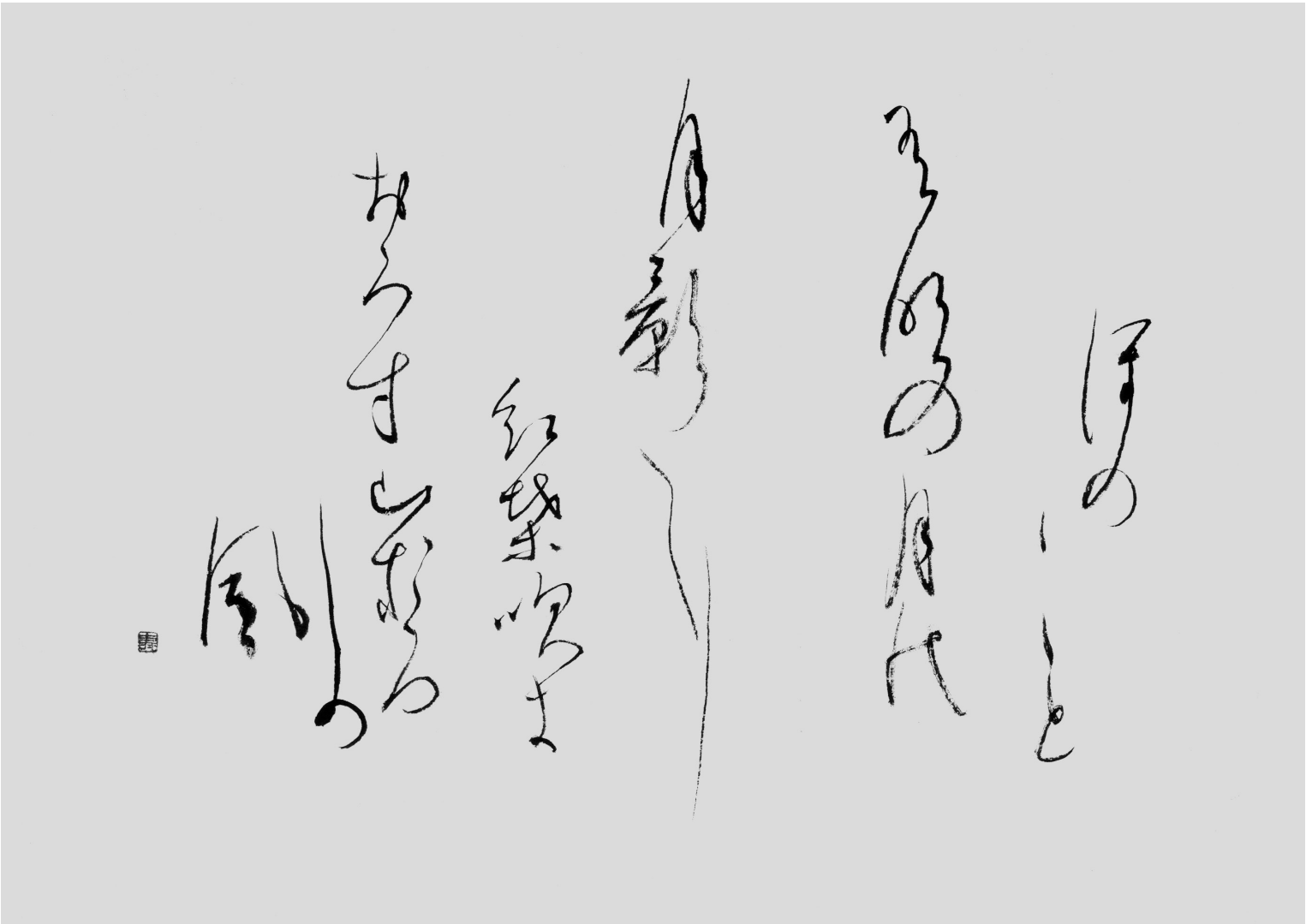
小学三年

| | |
|---|---|
| で | お |
| 手 | じ |
| 紙 | さ |
| が | ん |
| と | か |
| と | ら |
| い | 速 |
| た | 達 |

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

12月15日正午必着



岩本景楓先生書

ほのぼのと 有明の月ありあけ つきの 月影つきかげに 紅葉吹きおろすもみぢふ 山おろしの風やま おろしのかぜ (源信明)

1月新年号予告

一般半紙部規定

于良史『冬日野望』から「何處可消憂」

条幅部・半紙部臨書課題「鄧完白・張子東銘」

子犬

小学二年

平成

小学四年

松葉

小学六年

劍舞

中学二・三年

たか

小学一年・幼年

大安

小学三年

政治

小学五年

初夢

中学一年

友だちへ心をこめて
年賀じょうを送る

小学五年

年頭にあって自分
なりの目標を立てる

小学六年

五色雲が初老を浴
びて東の空に浮かぶ

中学

真実の中には多くの
美しさが存在する

ペン字(級位)

新たな年はふれも面影
のまは目をまへるゆるやか

ペン字(段位)

でおお
かきな
るた
とこ
りえ

幼年

たか
こぜ
がに
上の
がっ
つた

小学一年

ぞ家
うぞ
にく
をみ
食んな
べな
たて

小学二年

お真
くり心を
り物をこ
めする
て

小学三年

お正月に家ぞくで
書きぞめをした

小学四年

※十二月の競書の締切は十五日(月)です。厳守の程よろしくお願い致します。